

経済学用語集

古典派の第一公準

講師：加藤 真也

古典派の第一公準 ケインズも認める

Marginal Product

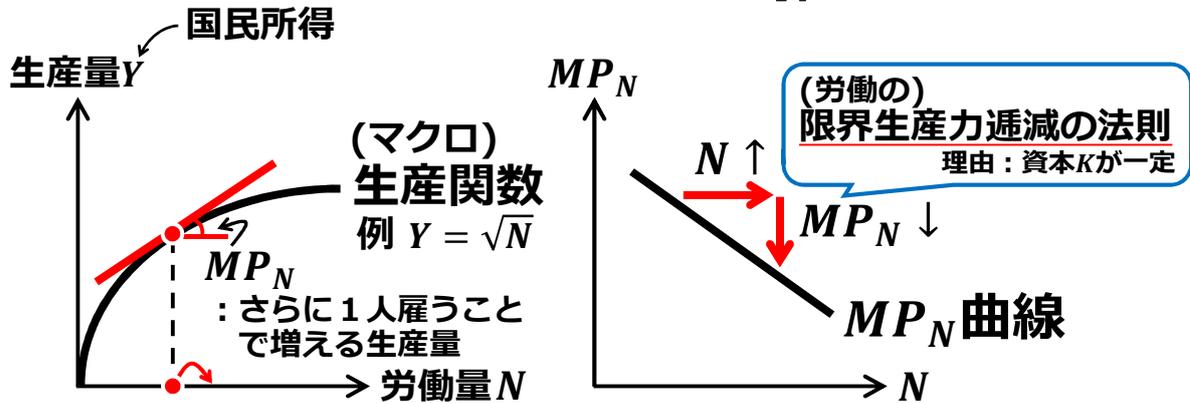
： 労働の限界生産力 MP_N と

実質賃金(率) $\frac{w}{p}$ が等しくなる

ように、企業は労働需要量 N_D
を決める

⇒ 企業の利潤最大化

労働の限界生産力 MP_N とは？



(計算例)

$$Y = \sqrt{N} = N^{\frac{1}{2}} \rightarrow MP_N = \frac{dY}{dN} = \frac{1}{2} N^{-\frac{1}{2}} = \frac{1}{2\sqrt{N}}$$

$$MP_N = \frac{w}{P} \text{ とは?}$$

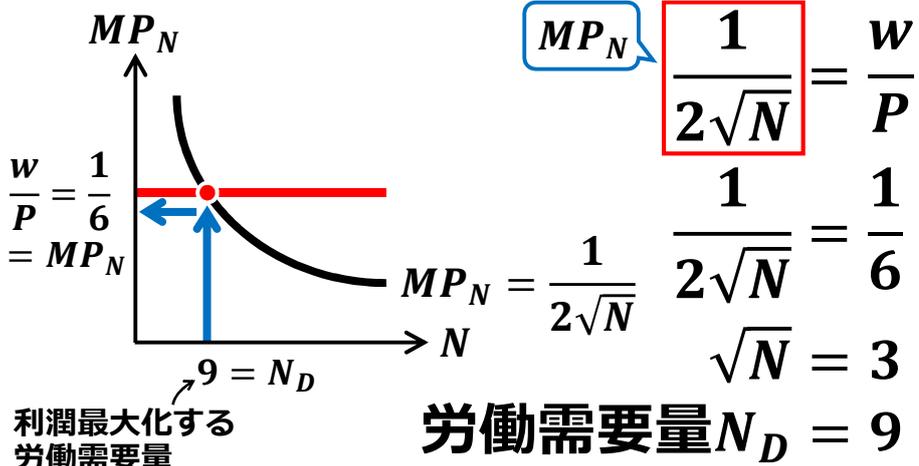
$$\text{生産関数 } Y = \sqrt{N}$$

$$\text{総費用 } TC = w \cdot N = 1 \cdot N$$

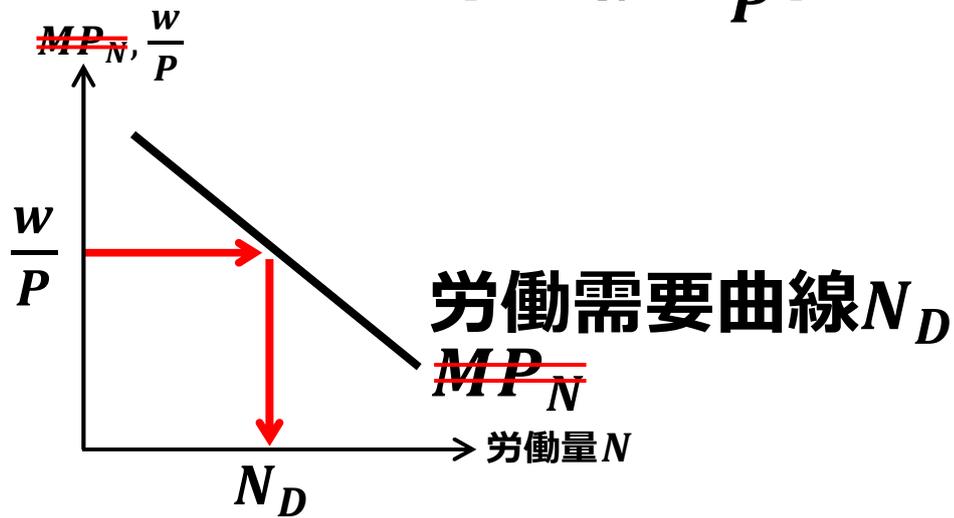
$$\text{物価 } P = 6 \quad \leftarrow \text{名目賃金(率), 貨幣賃金(率)}$$

$$\begin{aligned} \text{利潤 } \pi &= \text{総収入 } TR - \text{総費用 } TC \\ &= P \cdot Y - w \cdot N \\ &= P\sqrt{N} - wN \end{aligned}$$

$$\frac{d\pi}{dN} = P \cdot \frac{1}{2\sqrt{N}} - w \stackrel{!}{=} 0$$



古典派の第一公準($MP_N = \frac{w}{P}$)より、



ポイント

古典派もケインズ派も
古典派の第一公準から
労働需要曲線が導出できる

直観 $MP_N = \frac{w}{P}$

式変形すると、

$$P \cdot MP_N = w$$

$P \cdot MP_N$: さらに1人雇うことで増える収入

さらに1人雇うことで増えるY

w : さらに1人雇うことで増える費用

・ AS曲線の右シフト (要因：技術革新)

